

PALAU パラオ共和国

© Davor Rostuhar

日本と深いつながりを持つ、魅力的な太平洋の国

日本の南、太平洋に広がるこの楽園は、フィリピンとグアムの間にあり、ミクロネシアの西端に美しく佇んでいます。日本から最も近い太平洋の島国で、時差の心配もありません。

この魅力的な小さな島国は、屋久島とほぼ同じ大きさで、綺麗なサンゴと海洋生物が生息している息をのむような美しい海に囲まれています。特に有名なのは、「ロックアイランド」。2012年にユネスコ世界遺産にも登録された、445のマッシュルーム型の島々が点在するサンゴ礁の海域です。ここは、ダイバーたちにとっての夢のような楽園！

パラオと日本は歴史的に深いつながりがあります。第一次世界大戦後の委任統治時代に取り入れられた8000以上の日本語の単語が残されています。パラオの南部に位置するベリリュウ島は太平洋戦争の激戦地と知られ、今も多くの戦跡がその歴史を物語っています。言葉だけでなく、風景や文化も、日本との交流の痕跡があります。自然の美しさにくわえ、歴史や文化にも触れることができるまさに特別な旅行先です。



日本とのつながりが深いパラオ

history

歴史的な背景

第一次世界大戦後から第二次世界大戦終戦まで、パラオは日本の委任統治領だったため日本語による教育が実施されていた。今もその名残で日本語由来の現地語が残っています。当時、現地で学校や病院設立などインフラ整備が進められたことや、生活の中に日本由来の文化が残っていることで太平洋のなかでも親日国として知られています。

Japan

現地の文化に貢献した日本人

文字を持たなかったパラオ人の先祖は、集会所の建物の柱などに歴史や伝説を絵文字にして木彫りに残してきました。現在はストーリーボードという形で残っています。コロールの学校に1929年から3年間、美術教師として赴任した日本人の土方久功氏が、歴史や伝説を木版に彫刻することを提案してパラオ人に木彫りを指導したと伝えられています。

Souvenir

廃瓶リサイクルから生まれた美しい土産物

パラオで消費された廃瓶…本来ならば捨てられるものを活用して魚やクラゲの形の置物などの美しいガラス工芸に生まれ変わらせるガラス細工工房がパラオにあります。実はこのエコリサイクルシステムは日本の技術協力により実現したもので、パラオのお土産に美しいガラス細工を手にとってみてはいかがでしょうか。事前に申し込み体験プログラムへの参加も可能です！

パラオの魅力凝縮プラン

初級モデルコース まずはロックアイランドへ！

- 1日目
- AM ● 前日夕方日本を出発し、日付が変わる深夜にパラオに到着
まずはホテルにチェックインして、日中の観光に向けて睡眠をとろう
- PM ● リサイクルセンター併設のガラス工房で廃ガラスを使ったガラス工芸品づくり体験。世界で一つのお土産物づくり(受取は翌日以降)
その後は、日本も協力して設立されたパラオ国際サンゴ礁センターへパラオの環境を学んだり、パラオ周辺のサンゴや魚を眺めることができる夕食を取り、翌日に向けて早めに休もう
- 2日目
- All day ● 世界遺産であるロックアイランドへ出発！
マッシュルーム型の島々からなるロックアイランドを1日満喫！
多種多様な海洋生物と出会うダイビングやシュノーケリングも欠かせない
- ジェリーフィッシュレイク
毒性がほぼ失われたクラゲと泳ぐ幻想的な空間
 - ミルクウェイ
ロックアイランドの一角の海底に沈んだ白い泥は美白効果も抜群
 - ロングビーチ
オモカン島の純白のビーチでのんびりお散歩
- 3日目
- AM ● 中心都市コロールから少し足を延ばして、自然溢れるガラツマオの滝へ
・マイナスイオン溢れるパラオ随一の大滝「ガラツマオの滝」で自然を満喫しよう
・近くの植物園では南国のフルーツを楽しむことができる
- or
- PM ● 滝訪問が体力的に心配な場合、ロックアイランドを空からめぐるセスナツアーへ参加しよう
- 4日目
- AM ● グアム経由の早朝便で日本に向けて出発

丸ごと堪能プラン

中級モデルコース パラオの最北端から南の見どころまで！

- 1日目
- All day ● 前日夕方日本を出発し、日付が変わる頃にパラオに到着
1日文化体験へ！午前中は伝統的な首長の集会所「アバイ」を訪れたり、戦闘用カヌーを見学。パラオ料理のランチを取った後は、伝統的なタロイも農業やスカート製作を見学しよう
- 2日目
- All day ● 世界遺産であるロックアイランドへ！(詳しくは初級コース参照)
- 3日目
- All day ● 最北端の島：カヤンゲル島へ
・サンゴ礁に覆われた透明度の高い海でシュノーケリング
・純白のビーチで日ごころの喧騒から解放された1日を過ごそう
- 4日目
- All day ● 太平洋戦争の戦地となったベリリュウ島を訪問
・パラオの南方に位置するベリリュウ島は太平洋戦争中に日米軍の激戦が繰り広げられた土地
・戦時中に日本兵が潜伏した洞窟や、戦争博物館、ジャングルの中に残るゼロ戦などで歴史を体感することができる
・歴史に詳しいガイドさんの説明を聞いて、パラオと日本の関係をより深く理解しよう
- 5日目
- AM ● コロールから少し足を延ばして、自然溢れるガラツマオの滝へ
- PM ● コロールに戻ってランチを食べた後は、市内でお土産物などショッピングを楽しもう
- 6日目
- AM ● グアム経由の早朝便で日本に向けて出発

Q パラオの伝統的集会所・アバイに感銘を受けた日本人の美術教師・土方氏は、パラオ人に木彫りで伝承文化を残すよう教えました。他に太平洋島しょ地域に渡ったフランス出身の画家は誰でしょうか。

A 答えは p.18 に！

コラム 1 現地語の挨拶

簡単な現地語を覚えて、現地の人とコミュニケーションをとってみよう！

こんにちは ▶ Alii (アリー) さようなら ▶ Mechkung (メイクン)

ありがとう ▶ Mesulang (メースーラン)

また、統治時代の影響を受けてパラオで使われている日本語もあります。オキヤク(客)、ダイジョブ(大丈夫)、カツドウ(映画)、シャシン(写真)、デンキ(電気)、カンコウダン(ツーリスト)、など

コラム 2 環境先進国

パラオは太平洋島しょ国の中でも環境保護に先進的に取り組んでいる国です。その一つとして、入国時に「Palau Pledge」(パラオ・プレッジ)へ同意することが求められています。これはパラオの環境を汚さないという誓いであり、パスポートに入国スタンプとして押され、訪問者は署名する必要があります。また、2020年からサンゴ礁に有害な成分を含む日焼け止め製品の輸入、販売および持ち込みが禁止されるようになりました。パラオへ旅行する際は、禁止されている成分を含まない日焼け止めを持参するか、パラオ国内で適法に販売されている日焼け止めを購入する必要があります。

写真ご提供: Palau Visitors Authority, Belau Eco Glass (p.14 ミクロネシア連邦のクイズの答え: 浦島太郎)

オンラインコンテンツを楽しもう

さらにパラオの情報を知りたい方はパラオ政府観光局のウェブサイト(英語)にアクセス！現地でのツアーや体験プログラムの詳細を確認することができます。